



ひょうご人権ジャーナル

KIZUNA

# きずな

特集“**高齢者**”

どこでも いつまでも  
自分らしく

INDEX

- ② 介護する人こそ、  
自分をいたわる時間が大切  
橋中 今日子さん(介護者メンタルケア協会代表・理学療法士)
- ③ 社会、医療の大転換は避けられない  
大島 伸一さん  
(国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター 名誉総長)
- ④ いくつになっても自分らしく  
暮らし続けることができるために  
川上 由里子さん(ケアコンサルタント)
- ⑤ 仲間とともに、響け! 歌声  
男声ボーカルアンサンブルThe 40's (川西市)
- ⑥ 高齢者の孤立化を防ぐ地域交流の場  
ふれあいサロン(神戸市)
- ⑦ ホームレス支援の現場から  
砂脇 恵さん(龍谷大学社会学部現代福祉学科 講師)
- ⑧ 情報ぷらざ



超高齢社会を迎えた現在、高齢者が家族や社会の中で健やかに充実した生活ができるよう、さまざまな取り組みが行われています。しかし、介護における虐待、孤立、高齢者をねらった犯罪など、人権に関わる多くの問題も指摘されています。

本号では、高齢者の人権が尊重され、安心して自分らしい生活を送ることができる社会について考えてみましょう。



Profile

介護者メンタルケア協会代表。理学療法士として病院に勤務するかたわら、認知症の祖母、重度身体障害の母、知的障害の弟、家族3人を21年間にわたって一人で介護。自身の介護経験、心理学やコーチングを活かし、家族介護者のメンタルケアや介護離職予防の研修等に取り組む。著書に『がんばらない介護』（ダイヤモンド社）など。

私が  
思うこと

介護する人こそ、  
自分をいたわる時間が大切

介護者メンタルケア協会代表  
理学療法士

橋中 今日子 さん

家族を守りたくて始めた介護なのに

今まで500件以上の介護の相談を受けてきましたが、介護技術や制度についての相談よりも、「些細なことでもイライラする」「優しくなれない」など介護する人の“心のケア”に関する相談が9割を超えます。

7年前、母が度重なる病の末にほぼ寝たきり状態になり、同時期に祖母が認知症と診断され、私は、ストレスから母や祖母に対して「どうして

こんなこともできないの！」「私の邪魔をしないで！」と怒鳴ってばかりでした。

時間の余裕こそ大切

当時を振り返ると、朝、目覚めと共に祖母と母の介護が始まり、一息つく間もなく食事介助をし、飛び出すように出勤する毎

日でした。慢性的な睡眠不足も加わり、体も心も消耗しきっていたのです。けれども、「時間に追われるのは、私の段取りが悪いから」「相談することは甘えだ」と考え、ケアマネージャーに相談できませんでした。

状況が変化したのは、我が家に訪問介護で来てくれていたIさんの言葉がきっかけでした。Iさんは、認知症のお母様を介護してきた経験から「私も仕事では落ち着いて対応できるけれど、母にはイライラするし、怒鳴っちゃう。まして、疲れてたら優しくするなんてムリ！」と笑って話してくれました。Iさんのおかげで「怒鳴ってしまうのは自分がダメだからじゃない。余裕がないからだ！」と気づき、ケアマネージャーに相談し、祖母と母のデイサービスやショートステイ（お泊まりサービス）の利用回数を増やしました。その後、自分が休める時間を確保できたことで、イライラ

ラしたり、怒鳴ったりすることが激減しました。

自分をいたわるための時間を

相談を受けていると「私が休むためにサービスを使うなんて申し訳ない」との声がとても多いのです。しかし、介護は長期化しやすく誰かに負担が偏りやすいからこそ、「介護者がしっかりと休むこと」が介護を受ける人のためにも、自分自身のためにも何より大切です。イライラする、家族に優しくできないと感じた時が、「休む時」です。

現状の介護保険サービスでは、家族の負担をすべて解消するのが難しいからこそ、介護、医療の専門家は、「どうしたら家族の負担が減らせるのか？」を日々考えてくれています。周囲の人たちは、あなたが助けを求めてくれることを待っています。安心して「助けて」と伝えてくださいね。



# 社会、医療の大転換は避けられない

日本は世界一の超高齢社会(65歳以上の人口が21%以上)を世界一の速さ(高齢化のスピード:日本の65歳以上人口が7%から14%になるまでの年数が24年間)で達成しました。今では平均寿命が男女とも80歳を超えています。平均寿命が50歳だったのは1940年代、今から70年以上前です。

吉田兼好が徒然草で、長生きは恥が多いから40歳前に死ぬのが良いと言ったのは13世紀、織田信長が「人間50年」と舞ったのは16世紀です。寿命が10歳延びるのに300年も400年もかかっていたのが、この60年、70年間で30歳も延びました。

こんなめでたいことはないと思われるのに、高齢化が進むほど鬱陶気がむしろ暗くなっていくようです。老老介護、独居、孤独死、認知症、最近ではこんな話題が新聞紙面に載らない日はないと思います。私たち

国立研究開発法人  
国立長寿医療研究センター 名誉総長

おおしま しんいち  
**大島伸一**さん

が成長、成長という合言葉のもとに、必死になって築きあげてきた社会には、高齢化が更に進むことによつて負の部分が見え始め、その全貌を現し始めています。

高齢化が進めば高齢者の医療需要は確実に増えます。分かりやすいので医療費を見てもみると、平成26年度で約41兆円の医療費のうち、全

人口の約26%の65歳以上の高齢者が58・6%の23・9兆円を、12・5%の75歳以上で35・4%の14・4兆円の医療費を使用※しています。今後、高齢化は更に進みますからこの比率はもつと高くなります。

医療・介護はもちろんですが、電気、水道、道路、橋等々のあらゆる生活のインフラは1億2800万人用に構築されてきました。今後は、誰がこれらをどのようにして維持してゆくのでしょうか。高齢化が進むなかで、生活のインフラをどう維持し支えていくのかはもつと大きな問題になります。

老老・独居生活での家族の負担や介護による家族の破綻がますます深刻化してきています。限られた資源や条件のなかで、高齢化によって増え続けるこのような問題にどう対応すべきか。人権とは人が生きてゆくうえで決して侵されてはいけな



いものですが、それを絵空事にしないと言うなら、これまでの医療や介護のあり方についても、既得権益を白紙にして、どのようなシステムに再編するのか、覚悟して取り組まなければならない時期に来ていると思います。

具体的には、地域ごとにその特性に合った医療を、関係職種が連携して提供してゆく地域包括ケアシステムを構築することが必要です。

※厚生労働省(2016年)「平成26年度国民医療費の概況」

## Profile

1945(昭和20)年生まれ。1970(昭和45)年名古屋大学医学部卒業後、社会保険中京病院泌尿器科、副院長を経て、1997(平成9)年名古屋大学医学部泌尿器科学講座教授、2002(平成14)年同附属病院長、2004(平成16)年国立長寿医療センター総長、2010(平成22)年独立行政法人国立長寿医療研究センター理事長・総長を歴任。2014(平成26)年より名誉総長。



# いくつになっても自分らしく暮らし続けることができるために

## 地域包括ケアシステムとは

現在、日本の高齢化率<sup>※1</sup>は27.3%、約4人に1人が高齢者です。高齢者人口は増え続け、約50年後には高齢化率約40%になると推計されています。<sup>※2</sup>ひとり暮らしや高齢者夫婦のみの世帯、介護力の弱い小さな世帯がますます増加し、医療、介護ニーズも高まっています。

2012(平成24)年より、高齢期の暮らしを支える新しい仕組み「地域包括ケアシステム」が目標に掲げられました。**住まい、医療、介護、予防、生活支援**、この5つが一体的に提供できる地域の仕組みです。「いくつになっても住み慣れた街で、自分らしく元気に暮らしたい」という多くの方の願いを実現するため、市区町村ごとの特性に応じた整備が進められています。

地域包括ケアシステムを活用し自分らしく暮らすとは  
**住まい、医療、介護、予防、生活支援**

は、地域により質や量、連携の仕方も異なります。

例えば地域での見守り、食事、家事、移動支援、サロンなどの集い。また、一人暮らしや認知症、虐待など、地域での問題や思いがきっかけとなり住民による“お互いさま”という互助のかたちが生まれています。

日頃から自分のからだや心に耳を傾け、不安なこと、困っていることはないか、継続したいことは何か、自分の暮らしを点検してみましよう。そして、年だからとあきらめたり遠慮したりせずに、生活支援サービスや介護予防につながる運動や健康講座を仲間との交流を楽しみながら、早い段階から活用していく意識を持ちましょう。わが街で自分らしく明るい暮らしを継続するために、サービスの上手な活用とともに、支え合う互助、自分育ての自助、この2つの力は欠かせません。

また、**住まい**は暮らしの器、最も大

ケアコンサルタント

かわかみ ゆりこ  
**川上 由里子**さん

切な基盤です。ところが高齢期の家庭内事故は交通事故よりも多く、住み慣れた自宅が最も危険な場所となっています。玄関、トイレ、浴室など事故が起こりやすい場所には手すりをつける、段差を解消するなど、高齢期には住宅改修や環境整備を検討し、安全快適に生活できる住まいを整えましよう。近年はサービス付き高齢者向け住宅など様々な形の住宅が提供され始めています。地域の高齢者住宅や施設、新しい住まい方について情報を得ておくことも安心や備え、段階的なプランに繋がります。

## まずは相談から

### 人と人が繋がる街を目指して

お住まいの近くにある「地域包括支援センター」は、この地域包括ケアシステムの中核機関となる施設です。まずは足を運んでみて下さい。これからは地域の様々な職種の方が横並びとなり共生する時代です。“私ができ

ること”と“思いやり”を持ち寄りながら、人と人とが繋がりにくくなっても元気に私らしく暮らすことができる街づくり、私づくり<sup>※</sup>に、共にチャレンジしていきましょう。

## 【参考】

●厚生労働省：地域包括ケアシステムの構築に関する取り組み事例集  
<http://www.kaigokensaku.nhlw.go.jp/chiki-oukatsu/>

●地域包括ケアシステム構築に向けた公的介護保険外サービスの事例集  
<http://www.nhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-12300000-Roukenkyoku/guidebook-zentai.pdf>

※1 高齢化率「65歳以上が総人口に占める割合」  
 ※2 平成29年版 高齢社会白書(内閣府)平成28年10月1日現在より

## Profile

大学病院、高齢者住宅などで看護師として勤め、三井不動産「ケアデザイン」の立ち上げに参画。看護師のほか、ケアマネジャー、産業カウンセラーの資格を持つ。2011(平成23)年よりフリーランスのケアコンサルタントとして介護関連のコンサルティングの他、講演、執筆活動等を行う。自身も開業医であった父親の遠距離介護で、介護・看護・医療サービスを活用しながら在宅での最期を看取り、多くの学び、想いを得る。著書に「介護生活これで安心」(小学館)など。



# 仲間とともに、響け！歌声

男声ボーカルアンサンブル

The40's(ザ・フォーティーズ)(川西市)



熱の入った練習の様子



Jinken Report

川西市、宝塚市、池田市、伊丹市の1940年代生まれの男性を中心に結成された男声ボーカルアンサンブル合唱グループ「The40's(ザ・フォーティーズ)」が川西市にあります。

**Q:** 結成のきっかけは

A: The40'sは、地元合唱団に所属する男性たちが意気投合し、自分たちでも合唱グループを作ろうと、約7年前に結成しました。現在は17名、平均年齢72歳で活動しています。今後、団員を増やしたいと思っています。

**Q:** どのような活動をされているのですか

A: 毎週土曜日、午前中は他の合唱団の練習に、午後はThe40'sの練習に励んでいます。2011(平成23)年に第一回定期演奏会を開いて以降、喫茶店やサロンでの演奏会の開催、合唱コンクールへの参加やボランティアでの活動などを続けています。今年2月の定期演奏会でも、練習で培った男声合唱の歌声を市民の皆さんに披露しました。

海外での演奏経験もあり、2014(平成26)年にはスイスで、2015(平成27)年にはメキシコで演奏会を開きました。メキシコの皆さんと一緒に、東日本大震災復興ソング「花は咲く」を歌い、遠くメキシコの地から日本へ歌を送ったのが印象的でした。

**Q:** 曲作りや選曲はどのようにされているのですか

A: メンバーの作詞作曲によるオリジナルソング「歌って飲んで40's」は、メンバーの心の歌としてずっと歌い続けています。演奏会では、北原白秋の詩を歌った「日本の笛」、メキシコ民謡やスイス民謡、歌曲、歌謡曲など、幅広く無理なく、楽しく歌える曲を選んでいきます。

**Q:** みなさんにとって「歌」仲間とは

A: 合唱は、息を吐ききって声を出すので、いい運動になっています。また、一人ひとりの声を重ねていく合唱は「チームワーク」が大事です。仲間と一緒に歌えることは楽しいし、幸せです。また、練習の後にみんな揃ってビールで喉を潤すことで、さらに絆が深まっています。

**Q:** これからの活動について

A: 演奏会の開催やコンクールへの参加を継続することはもちろん、久しぶりに海外での演奏会にも挑戦してみたいです。次は、台湾で演奏してみたいと考えています。

歌うことが元気の源。全力で合唱に取り組む姿は生き生きとされています。The40'sの活動はますます盛り上がりがあります。



The 40's

URL

<http://the40s.music.coocan.jp>

The40'sは訪問演奏会、慰問演奏会など、日程が合えば出張演奏会を実施します。

ご要望があればホームページのお問い合わせメールでお尋ねください。

## 地域包括支援センターの主な業務

総合相談・支援	介護保険サービスなどの制度や地域資源を活用した総合的な支援を行います。
介護予防マネジメント	要支援の高齢者等を対象に、市町が行う介護予防・生活支援サービス事業の利用に向けた、介護予防ケアプランを作成します。
権利擁護・高齢者虐待防止	虐待の早期発見・防止、成年後見制度の活用を図ります。
ケアマネジャー等への支援	活動に悩みを抱えるケアマネジャーへの助言やネットワークづくりなどの支援を行います。

最寄りのセンターは [兵庫県地域包括支援センター一覧](#) [検索](#)

もっと身近に!!  
地域包括支援センター

「地域包括支援センター」は、地域の高齢の方や家族からの相談を受けて、必要なサービスを包括的・継続的に調整するところです。保健師、社会福祉士、主任ケアマネジャーなどが、それぞれの専門知識や技能を互いに活かしながら、総合的な支援を行います。お困りのことがありましたら、相談してみたいかができるでしょう。

# 高齢者の孤立化を防ぐ 地域交流の場



ふれあいサロン(神戸市東灘区)

## 2100回を超える活動

「ふれあいサロン」は、阪神・淡路大震災後の高齢者の孤立化を防ごうと、東灘区医師会の呼びかけのもと、ボランティアスタッフが集まり始まった活動です。同医師会の支援のもと、区内8カ所の医院待合室を利用して、高齢者が楽しい時間を過ごせるように、ボランティアスタッフが企画・運営しています。

毎回楽しみにしている参加者も多く、開催回数は2100回を超えました。医院の待合室を利用することで、高齢者が「足を運びやすい」「居心地がよい」「安心感がある」というよさがあるとのこと。高齢者の孤立化を防ごうと始まった活動が、今では、地域の高齢者同士のつながりを広げる場にもなっています。

## 学びながら楽しめるプログラム

それぞれの医院で月一回開かれる「ふれあいサロン」では、毎回、講演と交流会がセットで行われています。講演は、警察官による交通安全・防犯講座や薬剤師による健康講座など、月ごとに計画されています。交流会では、手芸や歌、ティータイム等、参加者同士が関わり合い、ふれあうことのできる内容になっています。

取材で訪れた日は、警察官による交通安全・防犯講座が行われていました。参加者

は、講師の話にじっくりと耳を傾け、自ら質問するなど積極的に参加した。講座の後、牛乳パックと千代紙でコースター作りを行いました。お互いに教え合ったり、ほめ合ったりしながら、のりやはさみを使って細かな作業もていねいに進めていきました。参加者の一人は、「ふれあいサロンに来ると、うきうきして楽しくなるので、毎回欠かさず参加している」と笑顔で話されていました。

## 参加者もスタッフも笑顔あふれるように

現在、約20人のボランティアスタッフが、それぞれの得意分野を生かして企画・運営をしています。グループ代表の安永早絵子さんは、「2100回を超える活動だけれど、一回一回新鮮な気持ちで、参加者のペースや心地よさに気を付けながら、みなさんが楽しく過ごせるように心がけていきたい」「これからも長く活動が続けられるように、無理をせず、スタッフも楽しみながら進めていきたい」と笑顔で語ってくださいました。



手芸や歌を楽しむ参加者  
(神戸市東灘区本庄町 神尾小児科)

東灘区医師会  
「ふれあいサロン」  
神戸市東灘区御影中町4丁目1-8  
TEL 078(811)2265  
FAX 078(851)0381

## きずな図書館

# 九十歳。 何がめでたい

著者/佐藤愛子 発行所/小学館



本書は、1923(大正12)年生まれ、今年94歳を迎える著者が、これまでの人生において、日常生活の中で感じたこと、世間での出来事について思ったことを函に衣着せぬ文章で綴っています。

佐藤さんは、本書の中で、年を重ねて起こる体の変化を嘆きながらも、「若い」と向き合いながら明るく愉快に生きる、ありのままの自分を伝えています。また、便利なものが増える文明の進歩に憤りを感じ、「本当に進歩が必要なのは『人間の精神力』だ」と力強く語る文章には、九十年を生きてきた佐藤さんからの人生をたくましく、自分らしく生きるためのエールが含まれています。

最初から最後まで、共感しながら一気に読むことができ、読んだ後は、気持ち軽くなる、元気が湧いてくる一冊です。



# きずな TOPIC

ホームレスに対する  
偏見をなくすために

## ホームレス支援の 現場から

龍谷大学社会学部 現代福祉学科 講師

砂脇 恵さん  
すなわきめぐみ

私は尼崎市内でホームレス支援に関わっています。

支援活動で出会うホームレスの人の典型は、高齢の単身男性です。彼らの多くは、高度経済成長期、地方から仕事を求めて関西に来て土木建築関係の現場を転々とした労働者でした。バブル経済崩壊後、年齢とともに仕事がなくなっていくまま、家族など頼れる人もいないなか、収入の途絶は、家賃が支払えず住まいを失う事態へと連鎖していくのです。

しかし、経済的に困窮しても社会保障などの支えがあれば、生活を立て直せたはずですが。ある男性は、年金受給権がありながら、住まいがないことにより年金の申請書類が届かず、受給しないまま、70歳まで野宿生活を続けていました。

「雇用」「住まい」「制度」からの排除が連鎖する過程において、彼らは野宿に至ります。ここで有効な支えは生活保護です。私たち支援者はその利用を勧めますが、支援を受けることに消極的な人も多くおられます。

「体が動く限りは自分であんなにかしたい」という人、「野垂れ死んでもいい」と生きる意欲を失った人など思いは様々ですが、苛酷な生活にあつても本人からSOSが発せられないことが、野宿生活の長期化の背景にあると言えます。



野宿生活から、安定した住まいと収入のある暮らしを独力で回復させることは、非常に困難です。そのため私たちは継続的な見守り活動を行いながら、何かあったときに相談できる関係を維持してきました。継続的な関わりのおかげでようやく、「家で暮らしたい」という希望が寄せられ、生活の再建に向けた歩みが始まります。

野宿から生活を回復すること。それは、支援によって衣食住を確保するだけではありません。住まいとは「他者とのつながり」の場でもあります。野宿から脱却したある男性は「近所の人と普通につきあいができるようになった」「音信不通だった子どもとも連絡が取れる」と喜ばれていました。まさに、失った関係性を編み直すなかで、その人らしい生活が回復していくのです。

### Profile

龍谷大学社会学部現代福祉学科講師。貧困問題や生活保護制度を専門とする。2006(平成18)年、尼崎市在住の社会福祉士有志とともに、ホームレス支援と貧困問題の研究・啓発活動を行う「尼崎貧困問題研究会」を結成、代表を務める。

活動に関するお問い合わせは  
sunawaki@soc.ryukoku.ac.jpまで。



### きずな映画館

## 50年後のボクたちは



© 2016 Lago Film GmbH, Studiocanal Film GmbH

監督:ファティ・アキ  
出演:トリストラン・ゲーベル他  
2016年ドイツ映画、93分  
9月23日(土)からシネ・リーブル神戸で公開。  
お問合せは、シネ・リーブル神戸  
078(334)2126

夏休みを前にして、14歳のマイクは厳しい現実と直面しています。クラスのマドンナの誕生パーティに招待されない。母親はアル中治療の病院へ。父親は愛人と旅行へ。

そんなマイクをロシアからの訳あり転校生チックが、盗んだ車でのドライブに強引に誘い出します。目指すはチックの祖父が住んでいるという(ドイツ語で未開の地をさす)ワラキア。スマホを捨て、地図も持たずに南へと向かいます。

頼るものない二人は、失敗もありますが、知恵も絞ります。親切な家族と出会い、貧しいながらも愛情に溢れた食事をふるまわれたり、警察に追われたりします。そんな中で、これまで訳ありの少女イザと出会い、貯水池での楽しいひとときなども体験します。

せっかくの冒険旅行も、あっけなく終幕を迎えた新学期。皮むけたマイクが学校にいます。チックとイザのその後は描かれませんが、3人が自分自身の人生を大切に自立して送るだろうことを予感させるラストが秀逸です。

# 情報ぷらざ

information

全国一斉

## 「高齢者・障害者の 人権あんしん相談」強化週間



9月4日(月)から10日(日)まで、法務省では全国一斉「高齢者・障害者の人権あんしん相談」強化週間を実施します。高齢者や障害者の方をめぐる様々な人権問題(暴行・虐待など)の解決を図るための人権相談を行います。虐待やいやがらせ、差別などでお困りの高齢者や障害者の方、あなたの周りでそういったことを見聞きした、という方、どんなことでも相談してください。相談は無料、手続きは不要です。また、秘密は厳守します。

みんなの人権110番 TEL 0570(003)110

(神戸地方法務局・兵庫県人権擁護委員連合会)

開設時間

9月4日(月)～8日(金) 8:30～19:00  
9月9日(土)・10日(日) 10:00～17:00

## EVENT GUIDE

イベントガイド



※その他のイベント情報は、当協会ホームページ「研修会・イベント情報」をご覧ください。

### イベント名 稲美町ほっとホットセミナー

日時 9月16日(土)10:00～11:30

場所 いしがい創造センター多目的ホール

※JR山陽本線「土山」駅から神姫バス上新田行き「六甲パター北」下車すぐ

内容 講演「DV被害者に寄り添った支援を」

講師 三野敬子さん(ウイメンズネット・こうべ)※入場無料

問い合わせ 稲美町教育委員会 人権教育課(宇城) TEL 079(492)2550 FAX 079(492)6768

### イベント名 INAC神戸レオネッサ 子ども人権サッカー教室

日時 10月1日(日)11:00～12:00 受付10:15～

場所 ノエビアスタジアム神戸 バックスタンド前芝生広場

※神戸市営地下鉄海岸線「御崎公園駅」から徒歩5分

内容 対象:保育園・幼稚園の年長～小学6年生の男女 募集:100名(先着順)

服装:サッカーができる運動に適した格好

準備:サッカーボール(ない場合はお貸しします)・水筒

特典:本イベントに参加いただく、お子様と保護者(1名)には、同日開催される試合観戦チケット(INAC神戸レオネッサVSちふれASエルフェン埼玉・バックサイド自由席)をプレゼント

※必要事項を記入の上、FAX/往復ハガキでお申し込みください。

免責事項:教室中の傷害事故は、当教室が応急処理を行います。但し、その後の処理(治療・入院・通院等)は保護者が負うものとし、当教室では一切責任を負いませんので、予めご了承ください。

問い合わせ INAC神戸レオネッサ 子ども人権サッカー教室係 〒658-0032 神戸市東灘区向洋町中7-1-1  
TEL 078(822)0179(平日10時～17時) FAX 078(822)0180

ラジオ関西「谷五郎のこころにきくラジオ」(毎週月曜10:00～15:00)で、  
14:35頃から「きずな」の記事を紹介しています。

HALF TIME



超高齢社会を迎え、介護や認知症などが新聞記事でもよく取り上げられます。しかし、一方では、雇用継続、再就職など高齢者が長年培ってきた技術や知識を生かす場も増えてきています。今月号のサブテーマ「どこでも いつまでも 自分らしく」には、高齢者が家庭や地域等で豊かにいきいきと輝いて過ごせることをめざすという思いを込めています。

取材で出会った高齢者の方々は、自分のやりがいや生きがいを感じながら、仲間と過ごす時間を満喫さ

れ、笑顔があふれていました。その笑顔に私も温かい気持ちになり、元気をいただきました。

私の祖母は今年91歳を迎えました。耳が遠くなり、歩く足取りが重くなっていますが、よく食べ、よく畑仕事をし、よく笑います。毎日を元気に楽しく過ごしてくれることが私たち家族の何よりの願いです。

これからも、お互いに支え合い、誰もが自分らしく暮らせる社会の実現について考えていきたいと思えます。(西村)

「きずな」は、当協会ホームページからも  
ご覧になれます。



(公財)兵庫県人権啓発協会 〒650-0003 神戸市中央区山本通4-22-15 県立のじぎく会館内  
TEL 078(242)5355 FAX 078(242)5360 info@hyogo-jinken.or.jp

兵庫県人権啓発協会

検索